

大空 (生徒・保護者向け) 57号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年12月24日(金)

マハラからの贈り物—ムスリムが教えてくれた文化と寛容—

□本日の概要

- 1 UAE出身のムスリムの女性をホームステイで受け入れた体験を通じ、私は自分が無意識のうちに偏見に囚われていたことに気付いた。異文化を理解するには、直接に会って交流することが大切である。
- 2 異国の人に自分の思いを発信し、相手の思いを汲み取るためにも、世界共通語である英語の力は必須である。
- 3 自国の文化について正しく理解していないと外国人に説明できない。また、日本文化を縁遠いものにしなないためにも、日頃から親しみ、大切にすることが必要である。
- 4 異質なものを排斥するのではなく、折り合いをつけて共存する力が大切であり、そのために「寛容」の精神が重要である。
- 5 グローカルリーダーとは、考え方の違うもの同士が、顔を合わせ、議論をし、最適解を考えることができる人のことである。身近な他者、世界の他者との出会いを夢見て、広き世界の国々へ飛び出して欲しい。
- 6 本日のNFC 感性 探究心 主体性 自他行動力 想像力

□UAEからの贈り物

私が本日持参したのは、ムスリム(イスラム教徒)の正装です。これは男性用ですが、女性用も子供用もあります。私たちからするとムスリムの服装は皆同じように見えますが、実は国によって微妙に違います。これはコスプレ用のコピー品ではなく、UAE(アラブ首長国連邦)政府からいただいた本物です。

ちなみに、UAEの男性の服は「カンドウラ」と呼ばれます。色は白が主体で、襟がないのが特徴です。サウジアラビアやバーレーンなどでは「トープ」と呼ばれ、襟があるのが特徴です。頭のかぶりものも、国によって呼び方が違います。UAEでは「ゴトラ」と呼ばれ、サウジアラビアでは「シュマッグ」と呼ばれるようです。滑り止めの輪っかは「イガール」と呼ばれるようです。

女性のスカーフは一般的なものは「ヒジャーブ」と呼ばれます。これも男性用以上に国によって形も呼び方も変わります。アフガニスタンなどは「ブルカ」と呼ばれる目のところだけが見える頭巾のようなものですが、UAEはもっと規制が緩やかです。

私はイスラム教徒でもイスラム研究者でもありません。2019年、コロナが流行する前ですが、私はUAEの女性をホームステイで自宅に迎えるという体験をしました。それ以来、私にとってUAEは、ちょっと特別な国になりました。この服装はそのときのお礼にいただいたものです。たった2泊の異文化体験ですが、私にとってこのホームステイ受け入れは忘れられない体験になりました。

□「世界青年の船」事業とは

ホームステイは、内閣府の主催する「世界青年の船」事業の一つとして実施されたものです。この「世界青年の船」とは、多様なバックグラウンドを持つ青年が参加し、世界各地から集まった外国青年とのディスカッションや文化交流等を通して、異文化対応力やコミュニケーション力を高め、リーダーシップやマネジメントの向上を図るとともに、相互理解を深め、国際的視野を広め、国際化や多様化の進展する各分野でリーダーシップを発揮して社会貢献を行うことができる青年を育成することを目的としています。つまり、世界の各

国から集まった18歳～30歳の青年が、何と1ヶ月間も大型船で共同生活をしながら異文化理解やリーダーシップを学び実践するもので、外国人120名、日本人120名、計240名が研修を共にします。2019年は、約120名の外国青年が来日しましたが、世界青年の船に乗船する前に、5つの県に分かれホームステイを実施したのですが、その一つが宮崎県でした。(現在はコロナのためにプログラムは中止)

ちなみに、我が家は、このときまで国内外を問わず誰もホームステイで受け入れた経験はありません。当時の我が家は、私と妻と大学を卒業したばかりの22才の末娘に加え、当時83歳のおばあちゃん(私の母です)との4人暮らしでした。私も妻も英語はまったくしゃべれません。また、私の母は高齢で、外国人はおろかお客を迎えること自体があまり好きではありません。私は、母のこともあるので、外国人のホームステイなど考えられないという感覚がありました。ところが、ホームステイの受け入れ先が見つからず、知人に頼みこまれた私の妻が、引き受けてしまったのです。

□UAEを探究する

私は驚きましたが仕方ありません。しかし、どうしたらいいのか途方に暮れました。初めての外国人ホームステイ受け入れ、しかもムスリムです。UAEについては、一応名前は知っているものの(ドバイ、アブダビなど)が、どんな国なのか良く分かっていません。ムスリムが豚肉を食べずアルコールは飲まないなどは知っていますが、どのようなことが許され、どのようなことが許されないのかほとんど知らないのです。

受け入れる以上、お客に不愉快な思いをさせたくありません。初めて訪れる日本が宮崎の我が家である以上、責任があります。私は、外務省のムスリム受入ガイドブックを読んでムスリムの生活について勉強し、インターネット等で様々な資料を調べました。肉については、鶏肉は食べるようですがイスラム教の戒律に従って調理された肉しか食べません。これをハラールフードといいます。ここで、質問です。宮崎でハラールフードが購入できる一般的なスーパーとはどこでしょうか?

答えは、マックスバリュ学園木花台店です。理由は分かりますか?宮崎大学にムスリムの留学生が大勢いるからです。(当時)私はイオンなどの大きなスーパーに片っ端から電話してハラールフードを探しましたが見つかりませんでした。しかし、マックスバリュ学園木花台店にはハラールフードの専用コーナーまであって、肉以外のスナックなども常備しています。我が家はハラールチキンで宮崎名物チキン南蛮を作ってもなそうと考え、ここで、もも肉などのハラールフードを購入しました。(ちなみに、Aプライスにもハラールの鶏肉等がありますが、業務用のお店のため量が多いので、一般家庭では持て余してしまいます。)

我が家には、上の娘が使っていた子供部屋が1部屋空いていたので、お客にはそこに泊まってもらうことにしました。1月でしたので、寒くないようにエアコンの使い方のマニュアルを英語で作りました。また、トイレがシャワートイレですが、ボタン表示はすべて日本語です。そこで、トイレの使い方の英文マニュアルを作りました。調べているうちに、シャワートイレというものは日本の発明で、「ウォシュレット」などという言葉も商品名であることが分かりました。そのため、ボタンの英文表示は統一されておらず、様々な表記があるのです。ホームステイ受け入れとは関係ないことですが、トイレ一つでも探究活動の連続です。でも、自分で疑問を持

って調べるという作業は苦痛ではありませんでした。お風呂も、日本のお風呂は湯船があります。外務省が外国人向けの「日本のお風呂の入り方」というマニュアルを作っているのを見つけましたので、それをもとに、リモコンの解説を加えて我が家の入浴マニュアルを作りました。さらに、UAEの国旗を印刷して家中に張りまくって歓迎ムードを演出しました。この時の私は、UAEと日本との国交は我が家が担っていると言わんばかりの気合いの入りようでした。

ロマハラさんとの出会い



我が家に滞在したのは、Mahara Alhoo tさんという大学を卒業したばかりの背の高い22歳の女性でした。幸い私の末娘とほぼ同じ年齢だったので、英語でのコミュニケーションは娘が頼りです。最低限の自己紹介や、家族の紹介文は、あらかじめすべて英語で台本を作りました。といっても秘密兵器はスマホの「Google翻訳」です。

マハラは、アラブ首長国連邦のラアス アル=ハイマ（人口約35万）の出身で、人口244万人のドバイと比べると小さな国です。ラアス アル=ハイマはUAEの最北部。古くから反映した歴史ある街で、海、砂漠の他に緑豊かな平原と山岳地帯があります。ドバイに比べて田舎ですが、歴史のある町で、漁業が盛んです。さらに陶土に恵まれ世界最大のセラミック工場があり、小規模ながら油田も開発されています。夏（6月～9月）は大変暑く、冬（11月～3月）は少し涼しい程度だそうです。だから、1月の日本は大変寒いと感じているようでした。

大学を卒業したばかりの女性ですが、実は、理系の技術者です。彼女はどの技術者か分かりますか？実は、ソーラーパネルで、ソーラー発電所等の設計を担当する予定だそうです。私は驚きました。UAEなら石油があるので、なんでソーラーパネルなんですか。実は、UAEは世界最大級の太陽光発電所があるのです。UAEは太陽光は豊富にあります。だから、自国のエネルギーは自然エネルギーに切り替え、石油は輸出に回す方針なのです。こんなことも全く知りませんでした。

私達は、片言の英語で、様々なことを話しました。家庭のこと、兄姉のこと、趣味など。UAEの母語はアラビア語ですが、公教育はすべて英語です。マハラは、英語は幼稚園から学んでおり、大変上手で訛りなど感じられませんでした。もちろん大学の授業も教科書もすべて英語だそうです。私自身を振り返ると、中、高、大学と8年間は英語を学んではずなのに、自分の専門が国語であったこともあり、大学入学後は完全に英語に背を向けてしまいました。私は全く話せませんし、海外に行くチャンスがあっても、国内を知ることの方が自分の将来の職業上は重要だと言い訳をして、海外に行くことを避けていました。今となってはもったいないことをしたと思っています。

私たちは、片言の英語で、様々なことを話しました。家庭のこと、兄姉のこと、趣味など。UAEの母語はアラビア語ですが、公教育はすべて英語です。マハラは、英語は幼稚園から学んでおり、大変上手で訛りなど感じられませんでした。もちろん大学の授業も教科書もすべて英語だそうです。

私自身を振り返ると、中、高、大学と8年間は英語を学んではずなのに、自分の専門が国語であったこともあり、大学入学後は完全に英語に背を向けてしまいました。私は全く話せませんし、海外に行くチャンスがあっても、国内を知ることの方が自分の将来の職業上は重要だと言い訳をして、海外に行くことを避けていました。今となってはもったいないことをしたと思っています。

口自国文化をうまく説明できない恥ずかしさ

さて、マハラは日本の普通の生活を体験したいという希望だったので、朝食では普通のご飯とみそ汁を提供しました。ライスはUAEでも食べるそうですが、サフランや魚介類の具をたくさん入れたパエリアのような食べ方で、一般的にはパンを食べるとのことでした。明太子は魚の卵と説明したら、スパイシーですが安心して食べていました。また、UAEでもおにぎりは売られているようで、海苔や寿司に親しんでいるのには驚きました。UAEの朝食は、パンとミルク、紅茶が中心のようです。

観光として、鶴戸神宮→堀切峠→山椒茶屋→綾国際クラブの里に連れていきました。私が最も困ったのは、自分の国の文化を、外国人にうまく説明できなかったことです。自分の国の歴史や文化について、知っているつもりになっており、

特に疑問を持たなくなっていることを思い知らされました。鶴戸神宮はいつ頃できたのかと質問されましたが、良く分かりません。また、日本の神話について英語で説明しようとするのと神様の人間関係が大変難しいのです。私は、事前に、宮崎市役所や観光案内所に行き、外国人向けの英語のパンフレットを入手しておいたので助かりましたが、実際に現地で見ると、そういうものを見ている暇はありません。鶴戸神宮では、日本は太陽や海、山、あらゆるものが神様で、どの宗教の人でもwelcome、大丈夫だと適当に説明しました。幸い、同じムスリムでもUAEの戒律はあまり厳しくなく、大らかだったので助かりました。会話は翻訳アプリに頼っていましたが、何と鶴戸神宮はスマホは圏外になり使えないうのです！道具に頼っていると道具が使えないときに行き詰まります。やはり、基礎的な力は自分の体に刻んでおく必要があります。



昼食には山椒茶屋に行きました。麺類は大丈夫だと聞いていたからです。内装が日本の古民家風なのでマハラは興味津々に質問責めにあいました。水車、ちょうちん、うちわ、家紋、大黒様など。説明できるものもあれば、うまく説明できないものもあります。例えば大きな狸の置物です。なぜ日本人の家には狸がいるのかと質問され、言葉に窮しました。狸を英訳するとraccoon dogです。しかし、どうもraccoonはアライグマです。確かに狸はイヌ科ですが、日本人にとっては狸は狸で犬という違和感があります。考えてみれば狸を説明するには、カチカチ山のおとぎ話や童話に登場する狸のように、日本民族と狸の交流の歴史に触れることになり、いわば民俗学的话题になります。そういえばイソップには狐しか登場しません。調べてみると、生物学的にも狸はもともと極東に分布する動物であり、欧米ではなじみがなかった動物のようです。狸の置物一つでも、日本独特の文化が背景にあるのです。私の訳の分からない説明を聞いて、マハラは、日本人はどうやら狸を神とあがめていると結論づけたようです。私のような日本人がいるから、日本文化が誤解されて世界に広まるのでしよう。

植物の少ないUAEから来ているせいか、宮崎の照葉樹林には深く感動しているようでした。綾城跡、古墳など、マハラは質問は尽きず、うまく説明できない自分が情けなくなるばかりでした。夕食は成功でした。ハラールチキンのチキン南蛮とサラダ、にぎり寿司などは好評でした。ちなみに、普通の寿司より、あぶり寿司の方を安心して食べているようでした。UAEにも寿司屋は沢山あるようで、日本の食文化の国際化を感じました。

植物の少ないUAEから来ているせいか、宮崎の照葉樹林には深く感動しているようでした。綾城跡、古墳など、マハラは質問は尽きず、うまく説明できない自分が情けなくなるばかりでした。

夕食は成功でした。ハラールチキンのチキン南蛮とサラダ、にぎり寿司などは好評でした。ちなみに、普通の寿司より、あぶり寿司の方を安心して食べているようでした。UAEにも寿司屋は沢山あるようで、日本の食文化の国際化を感じました。

口お互いの文化について語り合った夜

食後は、お互いの国の文化が話題になりました。私は茶道などの説明をしましたが、茶道の歴史や、一期一会など、抽象的な内容になるとうまく説明できません。特に説明が難しかったのは、外国人に有名な日本文化が、日本人にとって必ずしも日常ではなく、特別なものになっているという感覚です。（茶道や華道、着物など）自国文化なのに、自国では絶滅寸前であるという感覚は、マハラは理解できないようでした。

マハラは若い女性らしく、絵画が趣味で、アニメとディズニーの熱烈なファンでした。宮崎駿のアニメも殆ど見ており、トトロ、ポニョ、千と千尋などが彼女の中の日本のイメージになっていました。日本の漫画やアニメが日本を代表する文化になっていることを実感しました。マハラが感動していたのは、日本人の親切さと礼儀正しさでした。誰もが親切に声をかけてくれること、また、日本人が電車やバスをきちんと一列で待つこと。私たちににとっては当たり前のことですが、自国の良さも、外部から指摘されないと、案外自覚できないものです。

マハラが、自分の名前は「子馬」という意味だということで、馬という漢字を教えたが大変喜びました。そして、象形文字である漢字の形や意味に大変興味を示しました。彼女が感動したのはそのときに使った筆ペンです。というのも、マハラはアラビア書道にも取り組んでいたのです。書道という文化は、漢字文化圏だけのものではなく、それぞれの国の「書道」があるのです。私たちから見るとアラビア語は意味不明ですが、いわば私たちのひらがなのようなものです。マハラは、我が家の家族全員の名前と意味を聞き取ると、それをアラビア文字で書いてくれました。そして、私たちは、マハラを先生にして、全員でアラビア語の発音練習をしました。しかし、日本人にはどうしても発音できない音があるのです。アラビア語を学んでみると、英語のLやRの発音の違いなど、とてもたやすく感じるから不思議です。



طيب - جون! تشي
keep running and don't give up!
mahra

جنت البلاد - كونيكو
keep your shine our japanese
pair artist ♡
mahra :)

宗教上の風習なども話題になりました。私たち日本人からすれば、ムスリムは制約が多いように思われますが、当事者であるマハラは自分たちの文化であり当然のことと思っています。彼女は「神に守られている」という言葉を繰り返していました。イスラム教では、毎週金曜日に礼拝をし、家族が集まって食事をするそうで、日本より家族や一族の絆は強そうです。また、ラマダン（断食の期間）では、日の出から日没まで何も食わず飲まないそうです。お祈りは1日に5回で、私の家でも何やらお祈りをしていました。マハラは、ディズニーアニメや映画などで多くのアメリカ文化に触れていますが、ファッションや恋愛を自由にしたいという気持ちはないようで、親の決めた相手と結婚すると話しており、自分の宗教や文化を肯定的に受け止めていました。

片言ではありますが、お互いの文化について語りあうことができて、意義ある夜になりました。私の娘にとっても良い体験だったようで、娘はポテトチップスとミネラルウォーターを持って再度マハラの家を訪れ、深夜まで語り明かしたようです。

□ホームステイ受入れ体験から学んだこと

直接交流の重要性

私の中には、このときまで、無意識のうちにムスリムに対する偏見のようなものがあつたと思います。マハラだけで判断することはできませんが、ムスリムは信心深い控えめな人であり、決して難しい人々ではないことを知ることができました。当たり前ですが、やはり、直接触れあい、実際に体験することが大変重要です。何より、私自身に大きな変化がありました。自分の中に、ムスリムという未知のものに対する偏見や警戒感があつたことに気づき、自分が変わりました。UAEについても、それまでは中東の一つの国にしか過ぎませんでしたが、このホームステイ以来、私の中では、いわば「もう一人の娘が住んでいる国」という気持ちになっています。だから、中東諸国で事故等が起きると、心配になります。（私の娘とマハラはSNSで交流を続けており、元気であるという頼りを感じています。）外国人の人を知ったり、友だちになれば、その国を怖がったり憎んだりという気持ちはなくなります。国際交流と大げさに表現しなくても、このようなさやかな体験が他者や他国の尊重につながるのではないのでしょうか。

今は、コロナのため外国との交流に大きな制限がありますが、やはり、外国に実際に行き、様々な体験をすることが重要です。コロナ後のことは分かりませんが、人類の歴史は感染症との戦いの歴史であり、かなり手強い感染症も時間をかけて克服してきたことを考えると、いつかは外国と交流できるようになると思います。うまくいけば、皆さんが大学生になる頃は、状況はずいぶん改善しているかもしれません。世界の国々へ羽ばたく日のことを夢見て、今は、オンライン等で自分に様々な力をつけて備えてほしいと思います。

語学力(英語力)の重要性

確かに、身振り手振りでも意思疎通はできますが、細かいニュアンスや、文化の違いなどの抽象的な話題については、英語力がなければ理解しあうことができません。翻訳アプリも実際の会話ではなかなか使えません。皆さんがどんな職業に就くかは関係なく、やはり、英語は世界の共通語として、しっかり学んでおくべきだと痛感しました。

大学入試のために英語を学ぶというのも一つの理由ですが、実はそれだけではありません。異国の人を相手に、自分の思いを発信し、相手の思いを汲み取るために、世界共通言語といえる英語の力は必須です。今は一部の人だけが語学を学ぶ時代ではありません。グローバル化したビジネスの世界では何よりも英語が必要ですし、理系では、海外の文献を読み、論文発表や特許申請などもすべて英語です。今、日本が、語学とICT習得に急激に舵を切っているのは、狭い日本の中だけを見てはやっていけない時代が確実に来ているからです。皆さんが、自分の内発的なものとして語学に取り組むためにも、オンラインで外国の人と交流したり、論文を英語で発表したりする機会を大切にしてください。

私は、皆さんに、このようなホームステイ体験のような体験を是非して欲しいと思っています。語学の重要性を、知識として理解するだけでなく、自分の体験として「実感」することが、人間の内発的動機形成、主体性構築のためには重要なことです。私は、英語を勉強しておけば良かったと痛烈に後悔しました。幸い、その頃、仕事で国際交流の推進にも関わっていたこともあり、今まで以上に国際交流や探究活動を積極的に推進するようになりました。

自国文化の理解、継承の重要性

外国人は日本文化に大変興味を持ちますが、日本人自身が日本文化について正しく理解していないと、外国人にうまく説明できません。自国についての正しい理解の重要性を感じました。日本は、古来からの日本文化と、西洋文化が融合し、独自の文化体系を作っています。仏壇やだるまの置物など、古来からの日本文化が残る一方、茶道や着物も、日本人にとっても日常的なものとはいえない存在です。ムスリムも西洋化していますが、自国文化は私たちより根強く残っているようです。自分の国や郷土、文化について誇りを持って語れないことは、恥ずかしいことであるし、寂しいことだと思いを強くしました。また、私たちの日常と縁遠くなりがちな日本文化に、少しでも親しみ、大切にしていかなければ、衰退し消滅してしまうという危機感も感じました。

□カステラのパッケージに見る「寛容」

これからの社会においてもグローバル化は確実に進行します。グローバル化は悪ではありません。グローバルに拡大しつつあるものは普遍的な魅力を持っています。ハンバーガーにしても、ジーンズにしても、魅力あるからこそ世界に広まったのであり、それらを排斥することは現実的ではありません。グローバル化する文化を受け入れつつも、世界中に存在するローカルな文化の良さも認める、そんな「寛容」の心が重要ではないでしょうか。「寛容」は、ある辞書では、「心が広くて、よく人の言動を受け入れること。他の罪や欠点などを厳しく責めないこと。また、そのさま。」と定義していました。NFCでは、「自他肯定力」において「自分に自信を持つと同時に、様々な価値観や多様性を認め、他者と励まし合いながら互いに成長しようという強い気持ちを持っている」と定義し、「想像力」において「経験していないことや他者の内面・状況を推し量る力を持ち、他者に共感することができ。」と定義しており、これらに「寛容」は含まれています。

寛容、これは私たち日本人の伝統的な良さ、まさに文化で

す。例えば、宗教は文化の一つですが、知ってのように、日本人は、お正月に神社に参り、お寺で法事をし、年末にはクリスマスを祝うように、様々な宗教の風習等を排斥せず、生活の中に生かしてきました。「いい加減な態度」と思う人もいられるかもしれませんが、「いい加減」という言葉は、「途中で投げ出す、無責任」という否定的意味だけでなく、「程よい程度、ちょうど良い」というような意味もあるのです。世界的には、宗教で様々な戦争が起こり、今でもその対立は続いています。日本の歴史を見ても宗教的対立はありましたが、島国なので諸外国と比べ異文化との接触が少なく、衝突が回避できたという事情もあるでしょうが、私は日本人には、良い意味でのいい加減さ、「寛容」と言い換えて良い文化的美徳があるように思うのです。



この写真はどこか分かりますか。そうです、長崎です。左から神社、中央に大浦天主堂、右の門はお寺です。祈りの三角ゾーンと呼ばれています。

長崎は、昔、日本で唯一の外国に向かって開かれた場所でした。中国やオランダ、その他の国々の人たちが、狭い土地に同居していたのです。長崎の人たちは、そのような外国の人を否定しませんでした。もちろん、商売上のつきあいが必要だったという事情もあるでしょうが、宗教でも、相手を排斥せず、大らかに受け入れたのです。



長崎と言えばカステラですが、福砂屋というカステラのお店があります。1624年創業です。徳川家光が3代将軍となり日本が鎖国に向かう頃ですので、すごい老舗ですね。このお店の商標は明治時代に定められたようですが、何をモチ

ーフにしているか分かりますか。

そうです。コウモリです。皆さん、コウモリというどんなイメージですか。夕方になると空を飛んでいますね。イソップ物語にはコウモリの話がありますが、コウモリは、獣と鳥が戦争をしたとき、獣が優勢になると、自分は毛が生えているので獣の仲間だといひ、鳥が優勢になると飛べるので鳥の仲間だといひ、戦争後にそのことが獣にも鳥にもばれてしまつて、どちらからも仲間はずれにされて、暗い洞窟の中に身を潜めるようになったという悲しい話です。どっちつかずだと人から信用されなくなる教訓を含んでおり、コウモリはあまり良いイメージではありません。また、映画「バットマン」も、ヒーローですが暗い影を持ち、誤解される悲しい存在として描かれています。これは日本でも同じことで、コウモリは親しまれている動物とは言えないでしょう。

それでは、福砂屋さんは、親しまれているとはいひ難いコウモリを、どうしてお店のマークにしたのでしょうか。これには訳があります。コウモリを漢字で書くと、蝙蝠と書きます。(ちなみにバットマンは中国語で「蝙蝠侠」です。)中国語で蝙蝠は「ピエンフー」と発音するようですが、これが「変福」、つまり「幸福に変わる」という言葉の発音と大変近いようです。そのため中国では、蝙蝠は縁起の良いものと認識されているのだそうです。つまり、日本人が持つコウモリのイメージはさておき、中国人が蝙蝠を縁起物と思っているという事実を、うまく自分の商売に取り入れ、活用し

ていったのです。ちなみに、長崎の郷土料理「卓袱(しっぽく)」は円卓の中華スタイルに、さらに、さらに西洋料理(オランダ)と日本料理が融合したものであり、「いい加減」の集大成のような文化です。これを長崎県立シーボルト大学の先生は「和華欄文化」と呼んでいましたが、異文化と共存せざるを得なかった長崎の人々の柔軟性を感じることができます。

□折り合いをつける力

「折り合いをつける」という日本語がありますが、異質なものを衝突させるのではなく、うまくバランスを取るとするのは、長崎に限らず、日本の文化であり、私は生きる知恵だと思います。

確かに、全ての文化が私たちにとってなじみのあるものではないと思います。制約の多いイスラムの文化が、自分になじみ易いとは思いません。でも実際に接してみると、まったく理解不可能なものではなく、現代の私たちが忘れていたものを持つ謙虚で信心深い人でした。直接知ってみれば、違和感が残ったとしても、理解することはできます。異質なもの排斥するのではなく、自分にとって異質で、違和感のあるものと、どう折り合いをつけて、共存していくか、これは、これからの私たちの課題であると思います。

しかし、現状を見ると、「他者を許せない」人々が確実に増えています。これらの人は、自分と違う感性や考え方の人を排斥したり、攻撃したりします。しかし、本来、社会というのは、違う感性の持ち主の集合体であり、その中でどう折り合いを付けていくかが重要です。いちいち憎しみあつたり、傷つけたりしては建設的な未来は創れません。これからますます国際化が進み、異文化との交流が進みます。外国文化に限らず、日本人の中でも、極端に言えば自分以外の他者は、一種の異文化です。自分の感覚と違う人々と、どう仲良くやっていくかということは、皆さんがこれからも直面する問題です。そんなときは、私たちの先祖が身につけていた、寛容の精神、他者を取り込み、うまく折り合いをつけて共存させてきたという文化を思い出して下さい。

□Think globally,Act locally. Think locally,Act globally・

この言葉は元々は環境問題についての考え方から生まれた言葉ですが、大学等のビジョンに採用されるようになり、今や普遍的なことばになっています。意味は「地球規模で考え、足下から行動せよ」と、「足下から考え、地球規模で行動せよ」となりませんが、この2つの文は実は同じことを対比的に表現しただけで、ローカルとグローバルは表裏一体であることを示しています。

今は、誰もがグローバルリーダーになる時代です。一般的にはリーダーという一人の指揮官を意味していますが、全員が宇宙船「地球号」の乗組員であると考えれば、一部の国の指揮に従うことが正しい行動ではないことが分かるでしょう。考え方の違うもの同士が、顔を合わせ、議論を重ねながら、最適解を考える時代です。一人一人の主体性が重要であり、誰もがリーダーなのです。異文化がぶつかりあえば、議論や食い違いが起きますが、それで決裂したり排斥するのではなく、寛容の心を持って、他者を理解しようとする態度が重要なのです。

自分の場所に閉じこもっているのではなく、行動しましょう。異質な他者と触れあってみましょう。本校の校歌3番は、「飛べ、広き世界の国々へ」です。身近な他者、世界の他者との出会いを夢見て、今、足下を見つめ、努力してみてください。

今日が皆さんにとって、素敵なクリスマスであることを祈っています。

参考 福砂屋HP